

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

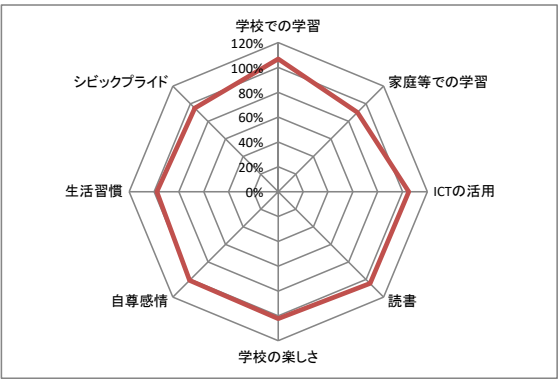
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・国語科平均正答率は、本市・全国平均正答率ともに上回っている。 ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、高い正答率を出している。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。」	
	努力が必要な問題	・説明している文章を提案している文章と捉えてしまうなど、「文章の種類とその特徴について理解しているかどうかを見る」問題につまづきが見られる。	
算数	全体的な傾向や特徴など	・算数科平均正答率は、全国平均には及ばないものの、本市平均は上回っている。 ・「数と計算」領域において、全国平均を大きく上回る正答率を出している。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できている。	
	努力が必要な問題	・「図形」領域において、台形の性質を、向かい合った二組の辺が平行であると捉えるなど、台形と平行四辺形の意味や性質を混同してしまっている傾向が見られる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・授業改善の成果として、授業中に自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することができると回答する児童の割合が高い。 ・「学校に行くのは、楽しいと思う。」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」等、90%以上の児童が肯定的に回答している。 ・「授業中におけるPC、タブレットなどのICT機器活用の使用程度は、週3回以上であると回答する児童が80%近くいる反面、「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、英語の学習等でも活用できるように啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・若年教員の割合が高い教職員集団であるが、昨年度までの主題研究等の取組や日々の授業に加え、学校での生活指導、生徒指導等の成果が出てきている。国語科や算数科だけではなく、体育科や音楽科等の専科指導、および高学年の教科による持ち合い授業の取組を進める中で、わかる、できる授業を実現し成就感・達成感を味わうことができる授業づくりに向けた取組を今後もより一層推進していくようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習において、より一層の意図的・計画的な家庭学習への取組を継続し、称賛や励まし等による評価を通して適切な学習習慣が定着するようにする。また、シビックプライドについては、地域活動への意欲はあると肯定的に回答する児童が多く、今後も校外学習を充実させる取組を展開する等、児童の心の育ちを促進していく。